

群馬県立伊勢崎工業高等学校（定時制）

学校評価一覧表

（令和5年度版）

（別紙様式）

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価	
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等				総合
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	①自分の学校が好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。	○校内規律を確保し参加型の授業・行事となるよう授業・行事改善を進める。	A	A	A	学校が好きだと回答した生徒が、90%であった。今後も生徒の主体性や興味関心を導き出せる授業や行事を計画、実施したい。また、授業に満足している生徒が97%で生徒の実態に合った授業が実践された。年7回の教養基礎テストや小テストを実施することで日頃から学習習慣の定着化を図った。外国籍の生徒には、漢字等の基礎学習を今後も強化したい。	多くの生徒が学校が好きであると回答している。今後も引き続き丁寧な指導を続けて欲しい。	
		②わかりやすい授業に満足している生徒が60%以上いる。	○授業規律の確保と主体的・対話的な授業を実施できるよう工夫する。	A	A	A			生徒が安全で安心して通える学校づくりの実践を通して愛校心の向上に努め、生徒の活動が主体となるような授業・行事の改善を継続的に行うことが重要である。常に授業や特別活動の内容の検討・見直しを行い、より一層充実させていきたい。「分かる授業」を実施するとともに、生徒の実態を把握した授業改善を心がけ、「深い学び」につなげたい。外国籍の生徒における、数学や漢字等の基礎基本の定着を強化したい。
		③基本的な漢字・数学の問題を70%以上解くことができる。	○全校一斉の一般教養基礎テストを実施するとともに数学の授業で毎時小テストを実施し基礎学力の定着を図る。	B	B	B			
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	④生徒の実態を踏まえた学習指導に、生徒の60%以上が満足している。	○数学の授業で少人数授業を行い、よりきめの細かい学習指導を行う。	A	A	A	学校の授業に満足している生徒が97%であった。少人数制や日本語補助教員により、きめ細かな指導ができた。授業の内容を理解し、学力向上を感じている生徒が91%であった。生徒の実態に合った学習内容の精選により生徒の達成感が得られた。今後も達成感が持てるように自信に繋がるような授業展開を計画したい。	生徒の状況を観察しつつ、中学までのつまづきを把握して指導している様子が分かる。生徒の実態に沿った指導で授業内容を工夫し、基礎基本を中心に、ぜひ生徒が学ぶ意欲を持って登校できるような指導を実施して欲しい。	
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	⑤学力の向上を実感している生徒が70%以上である。	○生徒の学力実態を把握し、生徒の実態に合った学習内容を精選する。	A	A	A			生徒が目的を持って学校生活を送り卒業に向かえるように、成績不振者や欠席・欠課の多い生徒の家庭との連携を一層深めるとともに、始業前や放課後に補習等を実施しながら基礎・基本や登校習慣の定着を図りたい。学力向上を実感でき学ぶ楽しさを見つけられるような授業実践を定着させたい。
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑥生徒に関する情報交換を毎週行なっている。	○始業時の職員打ち合わせの時間を活用して生徒の情報交換を行う。	A	A	A	職員の打合せ時間だけでなく普段からの密な情報交換により、生徒の情報共有・共通理解を行った。アンケートだけでなく学校生活を通したきめ細かい観察により、いじめの早期発見・早期対応を実施したことから、学校がいじめ防止に積極的に活動していると感じる生徒が86%であった。学校評価アンケートの結果から98%の生徒は守るべきルールをきちんと認識していた。定期健康診断は多くの生徒が受診した。管理の必要性に繋がる心臓等の再検査は100%受診した。歯科・眼科では緊急性を感じないためか、専門医による再検査を受けない生徒が多かった。	外国にルーツを持つ生徒が多い中で目を離さず支援することが生徒達の成長に繋がっている。今後も、普段の生活から生徒の小さな変化に気づき、直ぐに情報共有して問題の早期発見早期解決及び未然防止に努めて欲しい。	
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	⑦「いじめ防止基本方針」について、生徒に説明していると認識している生徒が70%以上いる。	○集会毎にいじめの認識について考える環境をつくる。	A	A	A			
	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑨基本的な生活習慣を確立するとともに、校則・ルールを守ることの大切さを理解している生徒が60%以上いる。 ⑩全員の生徒に定期健康診断を受診させ、必要に応じて専門医を受診させる。	○計画的に、校則やルールを遵守することの大切さを指導し、それを実行させる。 ○定期健康診断の必要性を説明して、疾病等の通知を繰り返し出して受診率を上げる。	A	A	A			今後も情報交換を密に行い、学校が安心・安全な場となるために生徒の問題行動の未然防止に努め、集会等の機会がある毎に規範意識を高める支援を行ってきたい。学校と家庭が連携して健康管理を行っていく必要があり、専門医の受診が必要な生徒には、学校と外部機関が連携して受診を勧めたい。健康の重要性を理解できるよう、担任・養護教諭・保護者が連携・協力しながら100%受診を目指す。
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑪進路情報の提供を3回以上発信している。 ⑫学校から提供される進路情報が役立っていると評価する生徒が70%以上いる。	○関係機関や全日制進路指導部との連絡を密にし、最新情報を生徒・保護者に伝える。 ○進路講演会を実施し、就職・進学に向けての意識を高めさせる。 ○1年次よりキャリアガイダンス・講演会を実施する。	A	A	A	4年生にはChrombookを利用して求人情報提供を行い、家庭でも閲覧できるようにした。また、進路講演会では自衛隊による説明会を行い、多岐に渡る職種の理解に繋がった。1、2年生ではあまり意識していない生徒が多く、4年生では不安を感じる生徒もいたが、担任、進路指導係を中心に個別面談等で支援し進路決定できた。	Chromebookを利用して、求人情報を家庭でも閲覧できるは保護者にとっても活用しやすい。生徒だけでなく家庭との連携を深める取り組みをして欲しい。	
	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	⑬進路実現に向けて60%以上の生徒が積極的に進路に取り組んでいる。	○定期的に個別面談を実施し、進路意識を高める。 ○未就労生徒に対しインターンシップを実施することで就労意識を高める。	A	A	A			学年毎の計画的なキャリア教育を実施しながら、保護者にも1年次から積極的に情報発信して欲しい。在学中に自分の適性を理解でき、将来就職したときのミスマッチを防ぐ指導を実施してもらいたい。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭・地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑭学校の教育活動を理解している保護者や中学生が50%以上いる。	○保護者会や授業公開、学校説明会を行う。	A	A	A	授業公開や学校説明会に多くが参加した。また、希望により個別見学も行った。保護者による本校の教育活動については91%が理解しているとの回答だった。「定時制たより」は学期毎、「はげんたより」は毎月発行しているが、見ているとの回答は87%だった。Webページも毎月更新しているが、閲覧は31%だった。	文化祭など学校行事も再開されてきており、生徒の活動や授業の様子をWebページ等で継続して発信して欲しい。	
		⑮保護者向けに各種のたよりを各学期に発行している。	○学期毎に「定時制たより」を発行する。 ○定期的に保健たよりを発行する。	A	A	A			
		⑯毎月Webページを更新する。	○学校行事等をWebページ上に迅速に公開する。	A	A	A			紙面通知とともにWebページやメール配信等も同時に活用し情報発信していく。生徒・保護者の他に地域に向けた広報活動を行い、地域から興味関心を持ってもらえるような情報を発信したい。
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑰ICTを活用した授業に生徒の70%以上が満足している。	○職員は、校内研修・研究授業等でICTの効果的な活用方法を学ぶ。 ○学習用端末(Chromebook)を組織的に授業に活用する。	B	A	B	ICTを活用した授業に満足している生徒が93%であった。学習内容に応じた機器の利用を行っているが、学習内容の理解に繋がるようにしたい。職員の打合せにおいては、kinakoやClassroomを活用し、生徒・保護者向けの連絡においては状況に応じてICTと紙とを使い分けた。	日々発展していくICT技術に遅れることなく積極的に取り入れて欲しい。 工業高校の特性を生かしてICTに強い生徒の教育を実践して欲しい。	
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑱ICTを活用した通知に生徒・保護者の70%以上が満足している。	○学校からの通知、アンケートのペーパーレス化を図るとともに、アンケートへの回答率を高める。	A	A	A			教職員全員がICT機器を利用した教育活動を行えるように情報・技術の共有を図り、さらなる活用を推進したい。生徒への学習支援や連絡などでもGIGAスクール構想の取組を理解し、Google Workspaceやスタディサプリを活用したい。